令和３年度　「志教育」実践事例

宮城県石巻商業高等学校

１　具体的な実践例１

『石商マーケット』事業の実施

(1) 石商マーケット事業の目的

模擬的な株式会社を設立し，経営方針の立案，商品の仕入れ，販売戦略，広告と広報活動，接客マナー，仕入れ価格と販売価格の設定など，商業高校の授業で学んだ内容を総合的に実践し，実社会で役立つ力を身につけさせる。また，会社経営を学ぶことで，将来は石巻地域の人々の役に立ち貢献できる人材を育成する。

(2) 具体的な取り組み

本校が主体となり，石巻商業高校人材育成協議会を運営し，地域の発展に貢献している委員（大学教授，行政，地元民間企業経営者等）から貴重な意見をいただきながら，「石商マーケット」をとおして生徒の「志」を高める事業とする。

３年生の科目「総合実践」，２年生の科目「マーケティング」の授業担当者を中心に，本校商業科教員をはじめとする教職員で取り組む。

生徒は店長，経理のほか，商品管理などの分野に分かれて活動する。店舗の設営や仕入れる商品の選択，陳列，一部商品の値段設定を生徒自らがおこなう。

	日程	場所	担当
第１回	１０月１９日	イトーヨーカドー石巻あけぼの店駐車場	１・５組生徒
第２回	１０月２０日	〃	２・４組生徒
第３回	１０月２１日	〃	３組生徒

全国の商業，水産などの専門高校が開発した加工食品を販売する。第１回目は，「北海道・東北」，「九州・沖縄」，第２回目は，「関東・甲信越」「中国・四国」，第３回目は，「北陸・近畿」エリアの開発商品を販売する。

(3) 指導内容

専門高校で作られた商品に理解を深めながら，魅力の伝え方や販売方法を考えて商売のノウハウを体験する。コミュニケーション能力の向上や地域との関りを学ぶ機会として有益な事業である。

【もとめる】３年間の授業で学んだ内容をもとに，模擬会社を設立し，経営戦略を立てる。

【かかわる】全国の専門高校で高校生が開発した商品についてその魅力を学び，石巻地域や宮城県内の消費者の手に届くように，より効果的な方法を考える。

【は た す】「石商マーケット」事業で身に付けた力を高校生として社会に生かす。

【もとめる】将来一人ひとりが石巻地域にどのように「かかわり」，人々の役に立つ人材としての役割を「はたして」，より高い「志」を育んで，よりよく生きることができるように夢を探求させる。この事業全体を通して生徒の心のエンジンに「志」を点火させる。

(4) 効果と課題

石巻市内の大型商業施設及び仙台市中心部の商店街で全国の商業高校で学ぶ高校生が開発した商品を取り扱い，商品販売を実施して学習成果発表会とすることで，専門高校における学習について広く県民に知らせることができた。

また，「石商マーケット」を特色ある学校づくりの事業として位置付けている。学校評価アンケートで今年度生徒の肯定票は７３．４％，保護者の肯定票が７９．５％となっており，今後は両者とも８０％以上の肯定票が得られるようにしたい。

２　具体的な実践例２

『石商手帳』の導入－全生徒対象－

(1)『石商手帳』導入の目的

社会に出て必要とされる力で，生活習慣力，時間管理能力，計画実行力，経験活用力の４つの力を身につけておきたい。高校在学中に，自分で必要な情報は自分で管理，行動できるようにする自己管理能力を育み，『自ら学び，自ら考え，行動できる人』を育成したい。

(2) 具体的な取り組み

ア　手帳活用の普及活動としてポスターを作成した。

・　積極的に活用している生徒の手帳の活用状況を提示，または手帳活用によるメリットや具体的な活用方法について例示する。

イ　手帳活用強化週間の実施

今年度も以下の目的で，手帳活用週間を実施した。

・　各期の考査一週間前を手帳強化週間とすることで，手帳に対する意識付けの強化を図ると共に，学習と手帳活用を関連づけることができるようにした。

・　学習計画を立てさせることで，「目標を意識し，その実現に向けて計画を立て実行していく力（計画実行力）の向上を図る。

実施方法

①　活用強化週間の初日の朝読書の時間を活用して考査の目標を立てさせる。

②　各教科の試験範囲の情報を手帳に一元化し，把握しやすくする。

③　考査終了後，テスト返却時に自分の点数と平均点数を記入し，自分の取組を評価する。

④　記録を残すことで，次回の考査時に計画を立てる材料とする。

⑤　普段手帳を活用することができていない生徒にも手帳を必ず持参させ，記入する習慣付けを図る。

(3) 指導内容

学級における指導

・　随時，帰りのＳＨＲにて，手帳強化週間に関する予告とその目的について伝える。

・　強化週間ポスターを教室掲示する。

・　活用強化週間において，学習目標及び学習計画を立てさせる。そして，学習目標，及び学習計画を省みる。

・　考査の日程を手帳に転記させる。

・　朝・帰りのＳＨＲにおける活用状況を観察し，指導を行う。

学年における指導

・　各学年の集会において，手帳を持参し，メモを取る習慣付けを図る。

教科における指導

・　試験範囲を手帳に記入し，情報を一元化させる。

(4) 効果と課題

・　活用方法について考える機会を作り，今後の活用の動機付けを図ることができた。

・　朝のＳＨＲで連絡事項を記入し，一週間の予定を書き込むなど，時間管理能力や計画実行力の育成に一定の効果があった。

・　連絡事項などを記入する習慣を身に付け，書くことの習慣化を図ることができた。

・　使用する生徒と使用しない生徒で二極化している。使用しない生徒は手帳を持ち運ぶこともしないでいるため，何度も呼び掛けをおこなった。